

香川の自然ガイドマップ4
(第二版)

。△▽▽▽

冬 春 オオタキサンオオコバナナガハネカクシ
秋 夏 世界で香川県にしかない昆虫。水の枯れない溜った沢の崖の下から見つかる。

大滝山の昆虫

豊かな森林環境と水環境が守られてきたため、多くの森林性昆虫と清流を好む水生昆虫が生息する。世界で大滝山にしかない種、県内では大滝山にしか生息しない種、大滝山に生息が集中している種など、多様な昆虫が生息し、その大半がブナ林など、山頂付近の落葉広葉樹林で見られる。

冬 春 ヨコヤマヒゲナガガミキリ
秋 夏 幼虫も成虫もブナ・イヌブナなどの生木だけを食べる。成虫の体の色は、ブナ類の樹皮に似ているため見つけにくい。

冬 春 シラクビナナフシ
秋 夏 標高の高い場所に生息する希少なナナフシ。香川県では、2017年に大滝山で見つかった。写真の被写体はその最初の個体。

冬 春 キンキコリクワガタ
秋 夏 朽ち木の中で越冬する新成虫。中腹以上の、落葉広葉樹林帯に生息する。日中に、ブナなどの新芽をかじり、染み出る樹液を吸う。

冬 春 ナガレホトケドジョウ
秋 夏 上流の細い沢に生息する。沢の縁にある石や落ち葉の下にかくれている。

大滝山の淡水魚

河川の源頭部から上流域に相当するため、種類数は多くない。内場川・小出川には天然分布のナガレホトケドジョウやタカハヤなど、8種が生息している。

大滝山の両生類・は虫類

ほとんどの種が夜にしか見かけないが、溪流ではカジカガエルが昼間から鳴いている。雨の夜、山道をドライブすると、低山ではなかなか見つけることの出来ない珍しいハビ類に遭遇することができる。

冬 春 タカチホヘビ
秋 夏 湿った環境に生息し、落ち葉の中でミズカメを専門におそって食べる。

冬 春 シロマダラ
秋 夏 夜に活動し、寝ているトカゲなどの爬虫類を専門におそって食べる。

大滝山のその他の節足動物類

県内屈指の森林環境が、豊かな土壌を育み、土壌性節足動物の宝庫となっている。特にザトウムシ類は日本有数の種多様性が高い地域となっている。県内では、25種が見つかっており、その多くが大滝山を含めた讃岐山脈に生息する。

冬 春 サスマタアゴザトウムシ
秋 夏 カニのハサミのような巨大な鎌角を持ち、それを使ってエモシを捕まえて食べる。

冬 春 タマヤスデ
秋 夏 標高が高く、高湿度の環境に生息する。朽木の中や下で見られる。ダンゴムシと違い、まるまった時に頭がくくれる。

冬 春 イボイボナメクジ
秋 夏 香川県で初めて発見された個体が新種記載された。他のナメクジと比べて乾燥した場所に生息し、カタツムリ頭を食べる。写真は、セトウチマイの殻に入れて、内部を食べている様子。

冬 春 カジカガエル
秋 夏 水から出た岩の上に縄張りを持ち、蟻を呼ぶ蟻。溪流にすみ、「フィフィフィフィ、フィーフィー」と美しい声で鳴く。

冬 春 ナラビヒダギセル
秋 夏 主に樹上に生息する。特に安定した環境に生えている大木を好む傾向がある。県内での生息地は極めて少ない。

冬 春 アワマイマイ
秋 夏 四国のみに生息する。日本最大になるカタツムリ。森林の岩の間や樹木の下に生息し、夜に菌類などを食べる。

大滝山の陸貝

植生が豊かで、湿度が高いため、面積の割には多くの種が生息する。この地が、分布地の端となっている種や世界で四国だけにしかない種も含まれ、学術上重要な地域となっている。

冬 春 アナグマ
秋 夏 地面に巣穴を掘って生活する。肉食を中心とした雑食性で、土を掘ってミミズなどを食べる。

大滝山の哺乳類

県内のほとんどの小・中・大型の哺乳類が生息している。種類によって、食べる物が異なり、主なエサとして土壌中の昆虫やミミズ、木の芽・葉・実や樹皮、下草や地下茎・貯蔵根、小型動物などがある。

冬 春 ノウサギ
秋 夏 草原から森林にかけて幅広く生息する。主に夜に活動し、葉や芽、樹皮などを食べる。

冬 春 スミスネズミ
秋 夏 谷類など湿気のある環境を好み、岩や石垣のすきまを好みモグラの穴にもすみ、植物の緑葉部、木の実などを食べる。

冬 春 テン
秋 夏 岩の隙間や樹洞を巣にする。雑食性でネズミや昆虫、果実などを食べる。

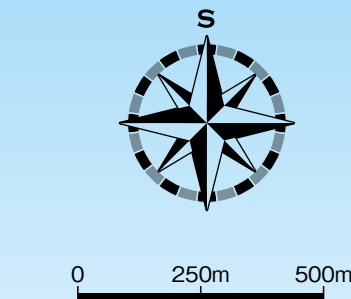
冬 春 ハクビシン
秋 夏 大滝山の正式な報告は1965年（昭和40年）だがそれ以前から知られ、肉が美味といわれていた。外来種で果実や小動物を食べる。

このガイドマップについて

- 大滝山には、このマップにある生き物の情報のほかにも、たくさんの素晴らしい場所があります。そんな場所を見つけたら、このマップに書き込んで、皆さんのオリジナルのマップをつくってください。
- このマップでは、自然観察に適した道を紹介していますが、登山道の途中には足元の悪い場所や幅の狭いところがありますので、十分に気をつけてください。
- オレンジ色で示した道は、現在通行止めとなっています。（令和4年3月25日）



ビューポイント バードウォッチング 駐車場 トイレ 大滝山 946m



冬 春 クマタカ
秋 夏 奥山に生息する、めったに見られない大型の猛禽類。ウサギなどの中小動物を襲って食べる。

冬 春 ジュウイチ
秋 夏 主に、山地の広葉樹林に生息する。大滝山ではオオルリの巣に卵を産み、その親鳥に雛を育てさせる。ケムシを好んで食べる。

冬 春 ミノサザイ
秋 夏 清流に生息し、滝の裏の岩のすきまに巣をつくる。写真のように、水生昆虫やカニ・小魚を食べる。

冬 春 ヤマドリ
秋 夏 沢沿いのシダが茂っているような場所に好んで生息する。植物の葉や種子、昆虫などの小動物を食べる。写真のように、母鳥（はら）打ちしている瞬間は見逃せない。

大滝山の鳥類

木の実や花の蜜、木をつついて中の虫、森林の鳥やネズミなどをつかまえて食べる鳥などがいる。特に滝や沢などの周辺や見晴らしの良い尾根筋が魅力的な観察スポットの一つとなっている。

冬 春 カワガラス
秋 夏 清流に生息し、滝の裏の岩のすきまに巣をつくる。写真のように、水生昆虫やカニ・小魚を食べる。

冬 春 オオコノハズク
秋 夏 夏、樹洞などで繁殖する。写真のように、ジネズミなどの小型哺乳類や鳥類、昆虫などを食べる。

冬 春 ヒガラ
秋 夏 主に針葉樹林に生息し、夜に「ポー、ポー」と鳴く。写真のように、ミミズなどの小動物を、落ち葉をかき分けてついばむ。

冬 春 ミジゴイ
秋 夏 暗い森林に好んで生息し、夜に「ポー、ポー」と鳴く。写真のように、ミミズなどの小動物を、落ち葉をかき分けてついばむ。

冬 春 ツミ
秋 夏 森林性の小型の猛禽類。主に小型の鳥類を襲って食べる。

大滝山の植物

県内で最も植物相が豊かな地域。全体的に個体数の少ない種類が多く、多くの種に出会うために何度も通う努力が必要だ。

冬 春 アケボノスミレ
秋 夏 県内では大滝山など讃岐山脈にのみ自生する。

冬 春 アサダ
秋 夏 県内では大滝山と竜王山にのみ自生する落葉高木。成長に伴って樹皮が割れ落ちる。

冬 春 ヒゴスミレ
秋 夏 県内における分布の主体は讃岐山脈にあり、その他、女体山や小豆島にも自生する。

冬 春 イヌブナ
秋 夏 県内では主に讃岐山脈に自生する。冷温帯林の自然植生度の高い、限られた範囲に自生する。